

令和3年度 魚津市総合教育会議 議事録

令和3年9月30日(木)

16:00~17:00

魚津市役所第1会議室

【出席者】市長 村椿 晃
教育長 山瀬 敬
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画部長、教育委員会事務局次長、教育委員会事務局参事、
生涯学習・スポーツ課長、教育総務課長代理、学校教育係長
企画政策課長、企画係長

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	只今から令和3年度の魚津市総合教育会議を開催いたします。会議の開会に当たりまして、魚津市長村椿晃より一言ご挨拶を申し上げます。
市長	<p>委員の皆様、お忙しい中、本日の会議にお集まりいただきましてありがとうございます。また伊東委員におかれましては引き続き委員としてお願いしたいということで辞令をお渡ししました。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>2学期が始まって1か月近く経ちますけれども、コロナ対策感染防止対策、通学路などの交通安全対策など色々な課題がありますし、やることはありますが、何を置いても、子供達の安全安心の確保についてしっかりと取組んで行きたいと思っています。そういった意味で、今日の会議でもお気づきの点があればご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>今日用意している議題については、令和3年度から魚津市は新しい総合計画に入っておりますが、その中におきましても学校教育の充実、学校統合の進展に伴って色々子供達の環境が変わってきているのですが、そのような中で教育内容をしっかり充実させていくということを謳っています。併せて、GIGAスクール構想、ICT教育にしっかりと取組んで行くということにもなっています。今日用意している議題については、皆さんと一緒にこれからの教育の在り方を考えていければと思っています。</p> <p>加えて、あと1、2テーマ、計画の中の取組も少しご紹介しますが、これからの魚津市の教育のあり方を一緒に考えていきましょう。簡単でありますけれども挨拶といたします。今日はよろしく申し上げます。</p>
事務局 (企画政策課長)	それでは議事に入りますが、ここからの議事の進行は市長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
市長	<p>それでは早速、会議に入って行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>議事の1番目にゼロカーボンシティの実現に向けた取組についてということで、今、市が取り組んでいる事をご紹介させていただきますので事務局から説明をお願いいたします。</p>

<p>事務局 (企画部長)</p>	<p>魚津市ゼロカーボンシティの実現に向けた取組みについて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンシティとは ・世界的、全国的なゼロカーボンに関する流れ ・魚津市のゼロカーボンに関する取組 ・魚津市再生可能エネルギー納入計画策定支援事業 ・(仮称) 魚津市地球温暖化対策実行計画【区域施策変】 R 4 予定
<p>市長</p>	<p>こういった取組を今進めているということです。再生エネルギーや脱炭素となると、どうしても事が大きく見えてしまいますが、最終的にはおそらく個々人の生活スタイルというところまで行くものですから、実際実行の段階になったときに、それぞれのところでどんな事ができるかということは、意見交換しながらやっていくというイメージを持っていただければと思っています。これについてご意見ありますか。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>国もそうだと思うのですが、1つの考え方として、二酸化炭素を輩出した何か(行動)を1つのポイントにする等、市民とか企業がわかりやすい表現をしたらどうかと考えます。</p> <p>我々は何キログラムという表現を使っているためイメージがあるのですが、何キログラムどうやったら出てくるかなどと言っているだけでは仕方がないので、例えばお父さんの通勤で普通の一般の乗用車に乗って、ここから富山市内の会社まで行きました、そうしたら「あなたは今日二酸化炭素を10ポイント排出しましたよ」と。一方で、家に生えている木は1日太陽が当たって光合成したら「何ポイントマイナスできるよ」みたいな。太陽光だったら電気自動車だったらマイナス何ポイント等。そのような方法で子供達に教育して行く中でゲーム的にやってくれたらもっとわかりやすいと思います。点数制で、自分の家が今、毎日何ポイントずつ二酸化炭素を出しているねとか、そのような表現に変えていくような教育を魚津市でやっていますということになれば面白いです。</p>
<p>市長</p>	<p>面白いですね。貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。 つづきまして、G I G Aスクール構想の議題に入ります。</p>
<p>事務局 (教委次長)</p>	<p>G I G Aスクール構想の推進について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でのタブレット学習(ドリルソフト、デジタル教科書)状況について紹介 ・タブレットの持ち帰り、フィルタリング対応について
<p>市長</p>	<p>現状の説明をしましたが、この取組や、それ以外のご意見、気が付くことがありましたら一人ずつ発表いただければと思います。</p>
<p>山浦委員</p>	<p>(タブレット教材について)低学年用のものは、ふりがなが振ってありますが、ふりがなが振ってあっても内容が(中学年、高学年と同じものでは)難しくて大体理解できないと思います。当然指導が入ったうえでの使用だと思いますが。</p>

事務局 (教委次長)	いきなり渡してということではなく各学校で指導が入り、説明をしながらの使用となります。
山浦委員	高学年になると、これだけでいいのかなと。高学年ならではの何か注意事項とかが必要になってくるのかと思いました。
松本委員	保護者向けにという意味合いも非常に強いのかなと思います。一緒に見てもらってという意味合いが強いのでは。
市長	<p>確かにそうですね。</p> <p>この間、ある国会議員の方が来てお話しをする機会があったので、ICTの絡みで要望がないかと問われたので、一つは、今タブレットを導入しているが、OSなどは5年も経てば切り替わってしまうため、それを更新することが結構大変なので最初だけではなく、継続的に環境的な整備ができるような財源の手当てをしてほしいということをお話しました。二つ目は、学校で教える先生方が大変なので、そのサポートをする人材、そういう手当をしっかりと続けてほしいということ、三つ目にお話ししたのは、この間、タブレットを使ったいじめのような話もありましたけれど、使い方、リテラシーの部分も、子供だけではなく大人達も含め、少し考えていかないと難しいと言う話をしました。とても難しいことですが、この三つセットで進めていかないと中々大変ですねという話をしました。</p>
伊東委員	<p>まず、先生方がどのくらい使えるかということが一番大きな課題ではないかと思えます。県の教育委員会が調べた資料で、ICTツールを使って教育が出来ると返事をした先生の割合が80%です。80%いますと答えられて、何をもちて80%なのかということの方が私達から見たら問題なのかなと思います。ツールを使って、きちんと本当に、活用して教育出来る人はどのぐらいいるのかということです。まずは(きちんと活用して教育出来ているのかを正しく)認識することが一番大事なのではないかと思えます。使えないことを認識することによって使えるようになっていくと思うので、自分の程度や状態を認識すること。</p> <p>それともう一つは、子供達使いやすいツールを作るといことと同様に、先生方にも使いやすいツールになっているのかという価値基準でツールの選び方を見たほうが良いかなと。子供達に良いものをつき詰めていくと、結局それを使う側がついて行けなくなります。私達は製造業なのでCAD等があるのですが、すごく良い機械がいっぱいあって使いたいのですが、結局使う側の頭がついてこないで、妥協点、この辺だったら使えるからこれにしましょうね、ということをやっています。そういうところは先ほど市長がお話されたように、教育をどうしますかということと一緒に思えます。今の先生の平均年齢が40歳ぐらいだとしたとしても、40歳から上の人達はこれを使えないのでは。(例として)画面にメモを残すというようなことができなかつたりします。でも今の20代の人達は画面にメモをする力がちゃんとついている。今タブレットを使った子供達が先生になる時代には、もう変わっていると思いますが、それまでの間はどうかということを決めていかないといけないと思います。</p>

	<p>また、全員が同じように相互に学習できるということは私達の時代にはなかったもので、そういうツールとしての使い勝手は素晴らしいと思います。</p> <p>もう一つは、コンテンツを先生が作らなくていいようにどうしていくかということを考えていく必要があります。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね。もちろん先生方の教え方の個性も大切にしながら、教え方を共有化したり効率化したり、あるいは高度化したりという展開ができるかと言うことですね。</p> <p>ただ、今はまず始まったばかりの段階なので、スタートラインの段階では、まずどうやって安全に使うかとか、そういったところから始まるのかなと考えています。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>セキュリティと言われて、例えば子供達のセキュリティだと言われて、じゃあセキュリティのそのルールとかシステムを理解して、子供達や親に説明をして理解してもらえ る力のある先生ってどれくらいいるのですかということから始めていかなければなら ないのではないですか。</p> <p>根本にあるものはそこが大事なんだということを理解して伝えられるかどうかの方 が大事なのであって。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね。そういう意味で先ほど言った三つ目の話（使い方、リテラシーの部分） もしっかりやっていかないとダメですということを学校ごとに考えて、と言われてもな かなか難しい点があるので。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>先生はタブレット端末を採用することにより楽になったのですか、大変になったので すか。</p>
<p>市長</p>	<p>今のところは大変なのではないでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>それこそ先生一人一人違うと言うかね。一般的に言うと、年齢が高い人にとっては、 ちょっと辛い部分があるのではないかと思います。実際進めているのは若い教員、大体 30 歳前後の教員が学校でも主として進めているという状況です。ただ、市長が先ほど おっしゃったように、（ICT を活用した教育が）始まったばかりで、出来るところから 試行的にスモールステップでやっていくことが大事だと思います。私達も立場上どうい う効果がと聞きたくなるのですが、今は教員も少しずつ慣れながらじっくり取り組んで いくことでステップアップして行くという段階だと思います。</p> <p>また、先ほど保護者の方の話が出ていましたけど、私もまさにこの I C T 教育を進め る時は、お父さんお母さんに、やっている意義や、家庭での（タブレット端末の）使い 方については少しずつでもいいですから知っていただいて、子供達に指導していただき たい。そのあたりが一番これから大事な部分になってくるのではないかと考えていま す。学校でも一生懸命やっていますが、やはり保護者の方に充分理解していただいて進 めていくということが大事だと感じています。</p>
<p>山浦委員</p>	<p>学校の授業で、朝来てから帰るまで全部タブレット端末を使うというわけではないの</p>

	<p>で、効果のあるものだけなので、例えば、計算など基本的なものは今まで先生が丸付けをしていて、そこから見るとかなり効率化され、時間の無駄がなくなっていると思います。一方で、話し合わなければいけないような学びについては、しっかり充実させていけば、タブレット端末使用による効果は高いような気がします。</p>
市長	<p>大事ですね。何のためにこれをやっているかというところもやっぱり。</p>
山浦委員	<p>子供もゲーム感覚で自分の程度に合わせてどんどん進んでいけるし。</p>
伊東委員	<p>先生の仕事のタブレット端末を使ったことによる効率化をもっと前面に出したら先生達が使えようになるのでは。効率化できた部分を、例えば人間力や考える力の教育の時間に使えるとか、子供をもっと細かく見るところに時間を割けるようにするために、このツールがあるという理解に変えていということ。先ほどお伺いしたタブレット端末を使うことが負担になっている先生がどのぐらいいるかということと、負担になっていてもいいのだけでも、負担がこうしたら楽になるのだということを見えるようにすることがすごく大事だと思います。</p> <p>1年間授業で全部一通りタブレットを使い続けたら来年同じ学年を持った場合に授業準備がなくなるから楽になるなんて、多分学校の先生達でもありますよね。先生にとってはそのためのツールでもあると思います。もちろん、子どもの学習というのはすごく大事なわけけれども、そのために先生達が忙しくなった意味がないので。</p>
片山委員	<p>コロナがありICT教育が進んだことが良かった。コロナがなければ、こういうことにはなっていなかったと思います。辛い中でも前向きに良い部分があったと思います。</p> <p>今日、体験でEライブラリーを初めて見たのですが、このようなものがたくさん世の中にあって、全国的にどのぐらいの自治体がどのように使っていますか。</p>
事務局 (教委事務員)	<p>全国的に使われていまして、様々な企業がサービスを提供しています。</p>
片山委員	<p>凄く良い教材だと感じました。</p> <p>自身の子供が使用しているものにはテストだけでなく、先生が教える動画まで入っています。苦手な単元はそれを見て自主学习しています。いいことだと思います。</p>
市長	<p>ICT教育については、以上のような状況です。お話いただいたことを課題意識として持って考えていきたいと思います。</p> <p>その他、これに限らず教育の関係で思っていることはありますかでしょうか。</p>
片山委員	<p>タブレット端末には、生徒同士や先生との間でのチャット機能はありますか。</p>
事務局 (教委事務員)	<p>あります。</p> <p>チームスというアプリを使い、コロナ休校時の遠隔授業を想定し、先生と生徒をつな</p>

	<p>いだ遠隔学習のテストまでを実施しています。チームスを使うと、テレビ電話のように使用できますし、チャット機能もありまして、先生に質問したり、授業でわからないところがあれば、その時点で記入して先生が回答できます。なんでも書き込むことができるため先生から「授業に関係することだけ書き込むこと」など使い方の指導はしていただいています。</p>
片山委員	<p>まさにその点が気になっていたところで、家に持ち帰り、生徒間で自由に時間制限もなく利用できるのではないかと考えています。</p>
事務局 (教委事務員)	<p>今のところはおっしゃるとおり、時間制限なく利用できるため、パンフレット等で親御さんへの案内として決まった時間がきたら親御さんの方で片付けてくださいと入れて、管理をしてもらうしかない状況です。</p>
市長	<p>そのあたり今後どうやって行くかというところは問題ですね。</p>
松本委員	<p>今のことに関連して、今は一般の生活にIT機器が入り込んできているので、今の子供達が大人になった時にはもう当たり前になっていると思います。だから今学校で導入されることについては、方向としては良いことだと思うのですが、これがやはり最優先事項というわけではないと思います。改めて思うのは、これは学習に役立つための道具です。また、先生方にとっては勉強に効果的に使うためのあくまでも道具です。だから、先生達がデジタル教科書を使うのに四苦八苦してしまっている状態では全く効果的に使われていないということなので、使い方とか内容をしっかり見ていただいて、より効果的に使うことが必要です。先生方がその能力を身に着けていく必要があると思います。ただ、それを待っていると厳しいので、子供達にとっては、ある程度学年の発達段階がありますから、低学年であれば、触って慣れることでいいのかなと、タッチパネルを触りドリルもゲーム感覚でどんどん触ればいいのかと思います。ただし、高学年になったらそういう訳に行かないと思うので、高学年の使い方としてどういうのが効果的なのかと言うことを、教育長が言われましたけど、慌てずスモールステップでやってほしいです。これも大事ですが他にも大事なことがたくさんあります。やはり、小さい子は小さい子なりにいろんな自然体験とか、その学年でしかやれないことがあると思います。デジタル教育はもちろん大切で推進していかなければならないですが、教育の中でも最優先事項というか一番にはならないだろうと思います。その前に学年によって、先にやらなければならないことがあるだろうと思います。</p> <p>また、こういう便利なツールができるのはとても良いのですが、例えば丸付け機能がついていますが、先生達が子どもの描いた紙の答案を手で丸を付けることによって、この子供の特性というか、この子はどのようにここで間違えるかとか、その字とか、書き方とか、直接子供の答案を見ないとわからない部分があります。そういったことも頭に入れながら、情報をうまく使いながら、もちろんデジタル教科書とか、タブレットを有効に活用しながら、だけど対面で会話すること、話をすること、子どものノートを見ることを大事にして行って欲しいと思います。一番小学校の頃に豊かな経験をしてほしいと思います。効率、効率と言われるのが自分はあまり好きではないので、効率を求めること</p>

	<p>はもちろん大事です。大事ですが効率だけを追い求めて学校や先生達に考えて欲しくないなということを思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>おっしゃるとおり子供との関わりをどう確保して、学びの質を高めるかということが究極の目的なので、これはあくまで道具ですから、できるだけそういうふうなものにうまくマッチするように活用して行くと言うことが基本だろうと思います。同時に先生にとっても、それがより働きやすい教えやすい環境になるように活用すると言うことが基本なので、ぜひまたそういった視点でいろいろと考えていただければというふうに思います。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>最後ですが、先生達だけが教えるのではなく、保護者には伝えるだけでなく例えばボランティアで来てもらわなければならないというように、何かやり方を変えて、一緒に何かをやってもらうことによって、伝えていくような、そういう違った手法をやって行くと、何か違うものが見えてくるのではないかと思います。また、企業の方を呼ぶなど。例えばデジタル端末を使うのであれば、経済界の専門の人達に聞いてみると簡単に理解して教えてくれますから、そういう保護者の方もいるので。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、非常にいいご指摘をいただきました。やはり学校に色々な方が来ていただくということは、学校の事を色々知っていただくことは非常にありがたいです。コミュニティスクールなどがありますが、良いところを取り入れていく、そういうことが必要だと感じています。</p>
<p>市長</p>	<p>色々な方々から力をいただっていくということは重要ですね。</p> <p>今後とも是非お気づきの点があれば会議の場でなくても結構ですので教育委員会にまた教えていただいて、実行すべき点や改善すべき点があれば、我々も予算とか制度とかに盛り込んでいきますのでご意見をください。よろしくお願いします。</p>
<p>事務局 (企画政策課長)</p>	<p>それではこれで本日の会議を終わります。委員の皆様、どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">17時15分終了</p>